

下水道幹線となった川

日本のみならず海外からも人が集まる通りとして有名な表参道。この通りは青山通りと交差する所から原宿駅前の神宮橋までおよそ 1.1 キロあるが、その中ほど、通称「キヤットストリート」と交わるあたりに「参道橋」と記された橋の親柱が残っている。実はこの橋はかつての渋谷川に架かる橋のひとつだった。川はどこへ行ってしまったのだろうか。その流れは「キヤットストリート」の下で下水道となっている。渋谷川が公共下水道になったのは昭和 39 年のこと。昭和 30 年代当時、東京は高度経済成長にともなう急激な都市拡張と東京オリンピックの開催に伴い、急ピッチで都市基盤の整備が進められていた。その中でオリンピック関連施設が多数設置されることになった渋谷川周辺はじめ、都内の多くの河川が下水道幹線として転用されることになったのである。



早朝の「キヤットストリート」。この下に下水道となった渋谷川が流れている

千駄ヶ谷下水道幹線（旧渋谷川）に入る

下水道幹線となった渋谷川を再生し、広く世界の人々に対して水と川の重要性を訴えようと活動している NPO 法人「渋谷川ルネッサンス」。この「渋谷川ルネッサンス」のメンバーとともに、かつての渋谷川を利用した下水道幹線「千駄ヶ谷下水道幹線」に入った。

入溝後、同 NPO 法人渋谷川ルネッサンス代表の尾田栄章氏（元・建設省河川局長）に聞いた。「このような人工空間を都市が作り出している現実を肌身で感じ取りました。この空間に潜り、日々の管理に携わっておられる方々のご苦勞。その積み重ねの上に成り立つ都市生活。我が身をいささかなりとも振り返らずにはいられません。

そろそろ下水道サイドと河川サイドが一緒になって、都市内の水環境をいかに再生するのか、真剣に考える時期に来ているのではないのでしょうか。その意味では、老朽化した施設をどうするのが問われている今こそ大事なタイミングだと思います」。

千駄ヶ谷下水道幹線に入った「渋谷川ルネッサンス」のメンバーは、それぞれに想いを新たにしました。



壁は川の護岸そのもの。天井は蓋をしたことがよくわかる



都下水道局関係者と「渋谷川ルネッサンス」メンバー